

特集

集落支援員 と 議会



集落支援員をご存じでしょうか。過疎地域等の集落の維持・活性化のため、地域の実情に詳しく、集落対策の推進に関してノウハウを有する人材のことをいいます。

■集落支援員になったきっかけを教えてください。

黛さん：私は元々地域おこし協力隊をやっていました。3年間の期間が終わって、農業振興に引き続き携わりたいと思っていたところ、市の方から集落支援員になりませんか、っていう提案をいただきました。集落支援員は私が安中市では第1号なんです。エリアを秋間地区と決めて活動しています。どんなことが自分にできるかなっていうことも考えながら、市と常にこういうのは活動になりますか、と相談しながら進めています。

■どのような活動をされていますか。

黛さん：梅に関わってくれる方を1人でも増やしたいっていう思いで活動しています。県外から畑を借りたいという方もいて「放置された畑がいいんです。それを再生してみたい。」という人もいます。実際めっちゃくちゃ大変なんですけど。また東京でバリバリ働いていて、まだ40代50代だけど農業に興味

があったり、退職後に農業をやってみたいと思っていたり、自分の今後の生き方をもう1回考えたい、みたいな方もいらっしゃいます。純粹に秋間梅林のファンでいてくださる方もいます。それぞれの経験を活かして梅林を支える仕組みを共に作っていきたいですね。またその方たちに何らかのサポートをしていくのも私の役割だと考えています。

■活動の成果など感じていたら教えてください。

黛さん：自分が剪定した木が前の年よりも収穫がしやすくなっていたり、実のつく量が増えていたりすると、やればやっただけ成果が出るのでやりがいを感じます。剪定にしても私1人で基本コツコツやりますけど、仲間がいると楽しいですね。それと農家の数ごとに剪定の仕方があるんです。誰に教わってもやっぱり全然違うっていうか。それぞれ本当にみんな違って、たぶん皆さん自分の一番ベストな剪定方法を見つけていくんですよ。